

第5章 目標達成に向けて

1 目標の達成水準の明確化

計画の目標は、数値化が可能な目標である「定量目標」と目指すべき状態等の質的な目標である「定性目標」の2種類の目標を使い、具体的に取り組んでいきます。定性目標は、達成状況が不明確になりやすい為、期限等を用いて達成状況を客観的に把握できるようにします。

2 目標の役割分担制の導入

計画の円滑かつ適切な推進を図るため、施設長を構成員とした経営計画推進会議を設置します。

経営計画推進会議に、各推進目標を達成するため、複数人の施設長を中心に構成する計画推進部会の設置及び重点的・横断的に検討が必要な推進目標について、ワーキンググループ（以下、WGという。）等を設置し、効果的・効率的に計画を推進していきます。

施設別計画については、各施設に施設別計画推進部会を設置し、施設長・副施設長を中心に、様々な立場の職員をメンバーとし施設全体で計画を推進していきます。

3 計画の進行管理

経営計画推進会議において、定期的に計画推進部会、施設別計画推進部会、WG等の取組事項の進捗状況の確認を行い、それぞれの推進目標の達成に向けて適切に進行管理を行っていきます。進行管理に当たっては、外部の環境の変化や情報収集により、必要に応じて弾力的に推進目標の内容の再検討等を行うとともに、PDCAサイクルにより計画を効果的かつ具体的に進めていきます。

＜中長期計画のマネジメント（PDCA）サイクル＞

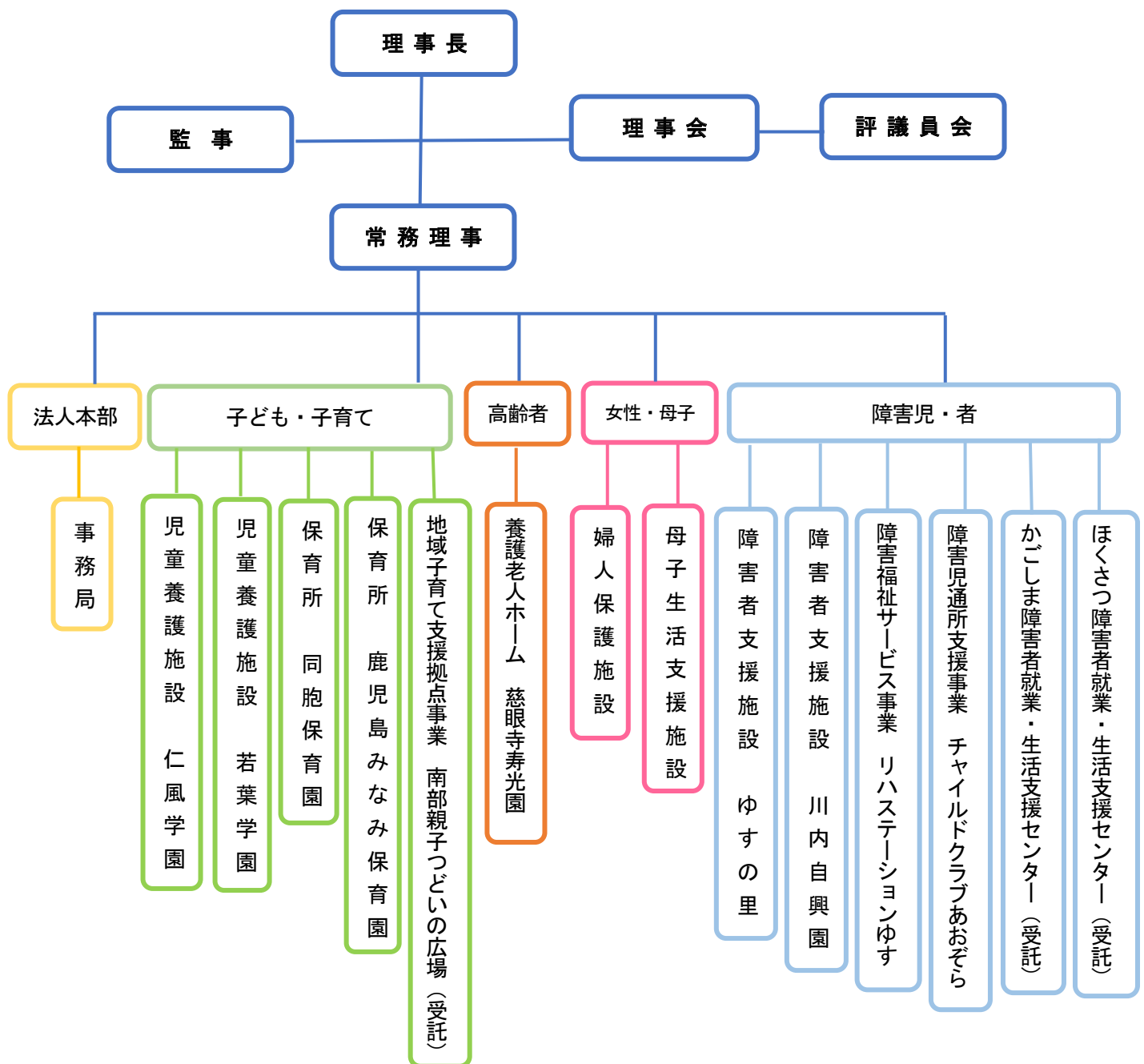


資料：全国社会福祉法人経営者協議会「中長期計画策定マニュアル」より抜粋

【参考資料】

1 事業団の組織体制

- (1) 役員
 - ① 理事 7人
 - ② 監事 2人
- (2) 評議員 8人
- (3) 職員定数(2018年4月1日現在) 422人
- (4) 組織図



2 事業団の沿革

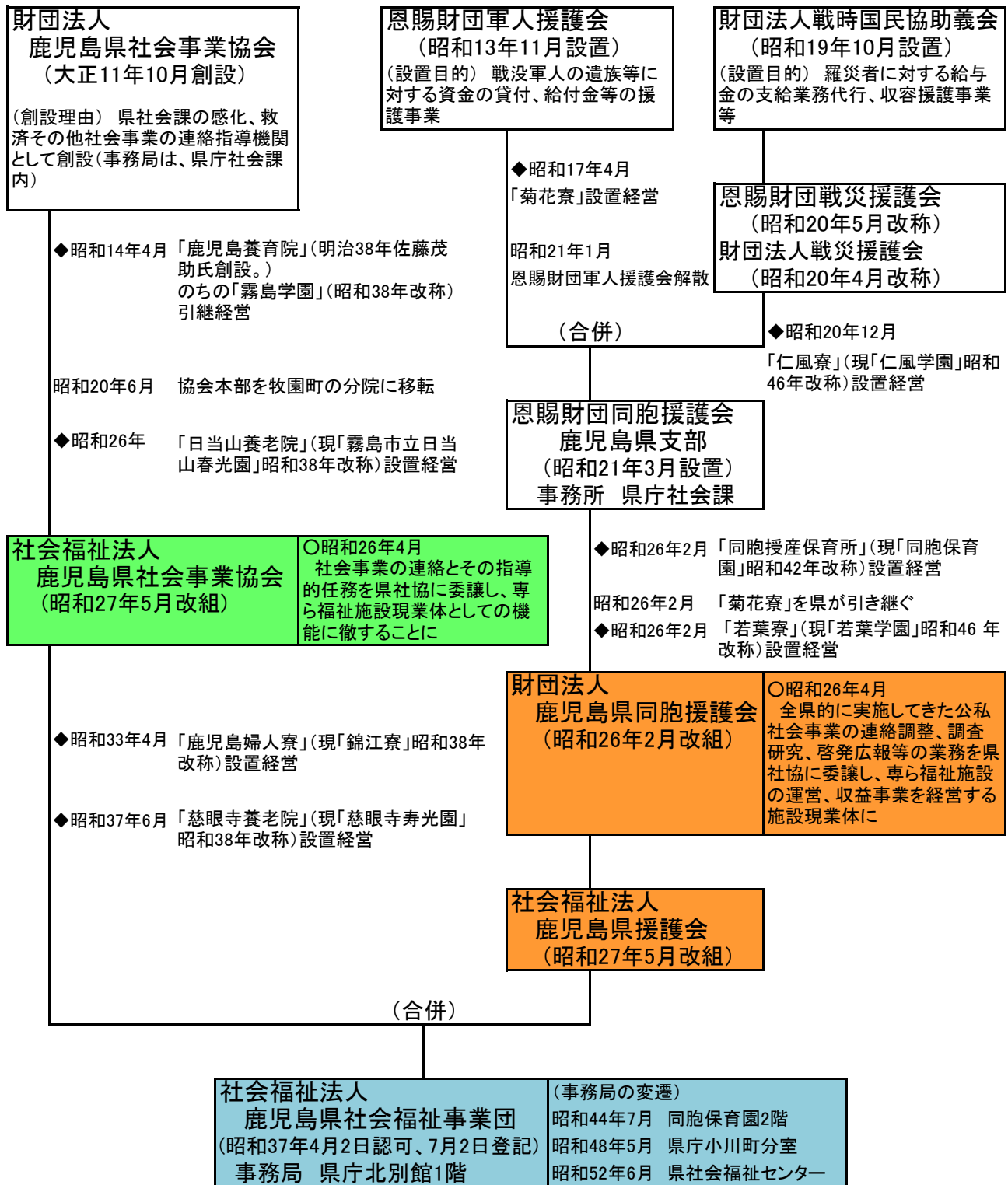
1962(S37)7.2	「社会福祉法人鹿児島県社会福祉事業団」設立（①と②合併） ①社会福祉法人鹿児島県社会事業協会 児童養護施設「霧島学園」、養護老人ホーム「慈眼寺寿光園」 養護老人ホーム「日当山春光園」、婦人保護施設 ②社会福祉法人鹿児島県援護会 児童養護施設「仁風学園」「若葉学園」、保育所「同胞保育園」
大正11年 3月	鹿児島県の組織として「感化、救済その他社会事業」の業務を担当する社会課が新設。
大正11年10月	社会課の連絡指導機関として、「財団法人鹿児島県社会事業協会」を創立されたのが、この法人の始まりである。（県からの補助金22万円を基金に交付を受けて組織され、知事が会長に就任、事務所は社会課内） 業務としては、「機関雑誌「鹿児島県社会事業」の発刊、社会事業一般に関する調査研究と教化、児童保護、医療保護、生業資金の貸付け、融和事業等を行うほか、各種の私設社会事業を助成してきた。」との記録がある。戦前、戦中を通じて、本県社会事業の普及発展、連絡指導に偉大な足跡を残してきた。
昭和14年4月	鹿児島養育院（佐藤茂助氏が明治38年に創立した育児施設、後の児童養護施設霧島学園）を引き継いで経営することになったが、これがこの法人の施設経営の始まりである。 戦後は海外引揚者等の救済活動にも取り組み、事務局は県庁厚生課に設置。
昭和26年	本来の使命であった社会事業の連絡とその指導的任務は、新しく発足した「県社会福祉協議会」に委譲。日当山養老院（現養護老人ホーム日当山春光園）設置経営。
昭和27年5月	社会福祉法人に改組して福祉施設現業体としての機能に徹することとなった。
昭和32年	売春防止法の施行に伴い婦人保護施設鹿児島婦人寮（現錦江寮）設置経営。
昭和37年	慈眼寺養老院（現養護老人ホーム慈眼寺寿光園）を設置経営。
昭和21年3月	中央において戦時中に存在した「恩賜財団戦災援護会」と「恩賜財団軍人援護会」が合併し、戦災者の救護、軍人遺家族や引揚者の援護を目的とした「恩賜財団同胞援護会（総裁高松宮殿下）」が発足すると同時に本県においては、「恩賜財団同胞援護会鹿児島県支部（支部長県知事）」が設置され県庁社会課に事務所を置いて事業を行った。
昭和22年10月	民間切替を行って、独立財団法人となった。
昭和26年2月	同胞援護会中央本部が発展的解消をしたのに伴う、県支部解散もあったが、公私各方面の要望を容れて民間社会事業団体として改組存続することとし、「財団法人鹿児島県同胞援護会」と称した。その際、従来全県的に実施してきた公私社会事業の連絡調整、調査研究、啓発広報等の事業は、社会福祉協議会に委譲。 これまで経営してきた養護施設、保育所の運営、並びに共同住宅、共同浴場、事務所、宿泊等の収益事業を経営する施設現業体として活躍を続けることとなった。 戦後まもなく戦災孤児等の救済のため創設された仁風寮（現仁風学園）や海外引揚者子弟を対象にした同胞保育授産所（現同胞保育園）、仁風寮から分離独立した若葉寮（現若葉学園）、母子寮の菊花寮（昭和25年、県に移管）が主な施設。
昭和27年5月	「社会福祉法人鹿児島県援護会」に改組している。

【参考文献】「恩賜財団同胞援護会会史」「鹿児島県史 4巻・5巻」「鹿児島県社協25年史」

(設立後)

昭和37年	4月 2日	社会福祉法人鹿児島県社会福祉事業団設立認可
	7月 2日	「社会福祉法人鹿児島県社会福祉事業団」設立登記 事務局本部を県庁北別館 1 階に開設
昭和38年	10月 1日	施設名変更認可 「鹿児島養育院」を「霧島学園」、「日当山養老院」を「日当山春光園」 「鹿児島婦人寮」を「錦江寮」、「慈眼寺養老院」を「慈眼寺寿光園」に改称
昭和39年	4月 1日	母子寮「菊花寮」、宿所提供施設「郡元寮」並びに「郡元寮附設保育所」を県 から受託、経営
昭和42年	4月 1日	郡元寮附設保育所を「鹿児島みなみ保育園」に改称 同胞保育所を「同胞保育園」に改称
昭和44年	7月 15日	事務局本部 鹿児島市柳町3-20（現在の同胞保育園2階）に移転
昭和46年	4月 1日	仁風寮を「仁風学園」に、若葉寮を「若葉学園」に改称 仁風学園を鹿児島市三和町から鹿児島郡吉田町に新築移転
昭和47年	4月 1日	若葉学園を鹿児島市伊敷町から始良郡始良町に新築移転
昭和48年	5月 11日	事務局本部 鹿児島市小川町1-6（当時の県庁小川町分室）に移転
	7月 1日	就業規則、職員給与規則、旅費規則、組織規則等諸規程の整備
昭和49年	3月 19日	理事定数を7名から15名に増
	8月 1日	「日当山春光園」を隼人町（現霧島市）へ移譲
昭和50年	4月 1日	鹿児島県社会福祉事業団職員互助会発足
昭和51年	6月 1日	重度身体障害者更生援護施設「ゆすの里」を県から受託
昭和52年	4月 1日	県補助を受け、全国社会福祉事業団協議会年金共済制度加入
	6月 10日	事務局本部を鹿児島市鴨池新町1番7号 県社会福祉センターへ移転
昭和53年	3月 16日	勤労身体障害者体育施設を県から受託
	10月 1日	知的障害者授産施設「川内自興園」を県から受託
昭和55年	4月 1日	霧島学園園舎新築移転
昭和57年	7月 20日	事業団設立20周年式典開催（県青少年会館）
昭和59年	3月 19日	養護老人ホーム「慈眼寺寿光園」を改築
昭和61年	10月 6日	宿所提供施設「郡元寮」廃止
平成 4年	8月 27日	事業団設立30周年記念式典（県青少年会館）
平成 5年	5月 1日	川内自興園知的障害者地域生活援助事業指定（グループホーム日笠山荘）
平成 6年	4月 1日	ゆすの里通所事業開始
平成 7年	1月 1日	機関紙「飛翔」第1号発行
	5月 15日	全国社会福祉事業団協議会移動理事会本県で開催
平成 8年	6月 30日	常務理事専任制廃止
平成11年	2月 9日	第2回理事会において児童養護施設 霧島学園閉園を決定
	3月 31日	児童養護施設 霧島学園休止
平成12年	3月 31日	児童養護施設 霧島学園廃止
	10月 11日	第34回全国社会福祉事業団大会本県で開催
平成15年	10月 15日	「かごしま障害者就業・生活支援センター」を県立ゆすの里内に開設（国及び 県から受託）
平成16年	4月 1日	県から保育所「鹿児島みなみ保育園」の移譲を受ける
平成18年	4月 1日	県立菊花寮、県立ゆすの里、県立川内自興園の県立3施設指定管理経営開始
	10月 1日	養護老人ホーム「慈眼寺寿光園」特定施設入居者生活介護事業の指定を受ける

平成18年10月 1日	老人居宅介護等事業「訪問介護ステーション寿光園」を慈眼寺寿光園内に開設
平成18年12月 1日	地域子育て支援センター「上町わくわくランド」を同胞保育園内に開設（鹿児島市から受託）
平成20年10月 1日	老人デイサービス事業「デイセンター寿光園」を慈眼寺寿光園内に開設
平成21年 2月27日	保育所「同胞保育園」の全面改築完了
4月 1日	県から知的障害者援護施設「川内自興園」及び「川内厚生園」の移譲を受ける
	放課後児童健全育成事業「同同学童クラブ」を同胞保育園内に開設
平成22年 4月 1日	県から母子生活支援施設「菊花寮」の移譲を受ける
平成23年 3月18日	保育所「鹿児島みなみ保育園」の全面改築完了
4月 1日	県から身体障害者更生援護施設「ゆすの里」の移管を受ける
平成24年 1月20日	児童養護施設「若葉学園」の全面改築完了
3月 9日	知的障害者援護施設「川内自興園」の全面改築完了
4月 1日	「川内自興園」と「川内厚生園」が合併、障害者支援施設「川内自興園」となる
11月 1日	事業団設立50周年記念式典（マリンパレスかごしま）
平成25年11月 1日	「かごしま障害者就業・生活支援センター」をゆすの里内から鹿児島市新屋敷に移転
平成25年12月24日	地域子育て支援拠点事業「鹿児島市南部親子つどいの広場たにっこりん」を鹿児島市西谷山に開設（鹿児島市から受託）
平成26年 1月 6日	「ほくさつ障害者就業・生活支援センター」を薩摩川内市内に開設（国及び県から受託）
平成26年 1月15日	特定相談支援事業所「あおぞら」を開設
平成27年 4月 1日	特定相談支援事業所「ゆす」を開設
	障害児通所支援事業（放課後等デイサービス事業）「チャイルドクラブあおぞら」を川内自興園内に開設
	ゆすの里で自立訓練（生活訓練）事業を開始
平成27年 5月22日	障害者支援施設「ゆすの里」全面改築完了
平成28年 3月18日	指定生活介護事業所「リハステーションゆす」の新築工事完了
平成28年 4月 1日	指定生活介護事業所「リハステーションゆす」を開設
平成28年 6月 1日	障害児相談支援事業所を相談支援事業所「あおぞら」で開設
平成30年 3月31日	特定施設入居者生活介護「養護老人ホーム慈眼寺寿光園」の一般型への移行に伴い、老人居宅介護等事業「訪問介護ステーション寿光園」及び老人デイサービス事業「デイセンター寿光園」を廃止
平成30年 4月 1日	外部サービス利用型特定施設入居者生活介護「養護老人ホーム慈眼寺寿光園」を一般型特定施設入居者生活介護へ移行
	リハステーションゆすで自立訓練（生活訓練）事業を開始
平成30年10月 1日	川内自興園にて就労定着支援事業を開始
平成31年 3月19日	障害児通所支援事業（放課後等デイサービス事業）「チャイルドクラブあおぞら」全面改築完了



- ◇昭和39年4月 「郡元寮附設保育所」(現「鹿児島みなみ保育園」昭和42年改称)・「郡元寮」・「菊花寮」県から受託
- ◇昭和51年6月 「ゆすの里」県から受託
- ◇昭和53年10月 「川内自興園」県から受託
- ★平成16年4月 「鹿児島みなみ保育園」県から移譲
- ★平成21年4月 「川内自興園」、「川内厚生園」県から移譲
- ★平成22年4月 「菊花寮」県から移譲
- ☆昭和49年8月 「日当山春光園」隼人町に移管
- ☆平成23年4月 「ゆすの里」県から移管
- 昭和61年10月 「郡元寮」廃止
- 平成12年3月 「霧島学園」廃止
- 平成24年4月 「川内自興園」、「川内厚生園」を合併し、定員を増やした新たな「川内自興園」となる。

